



腫瘍のうち、どれくらいが乳腺腫瘍？

■ 乳腺腫瘍の発症率^{※1}（犬全体）

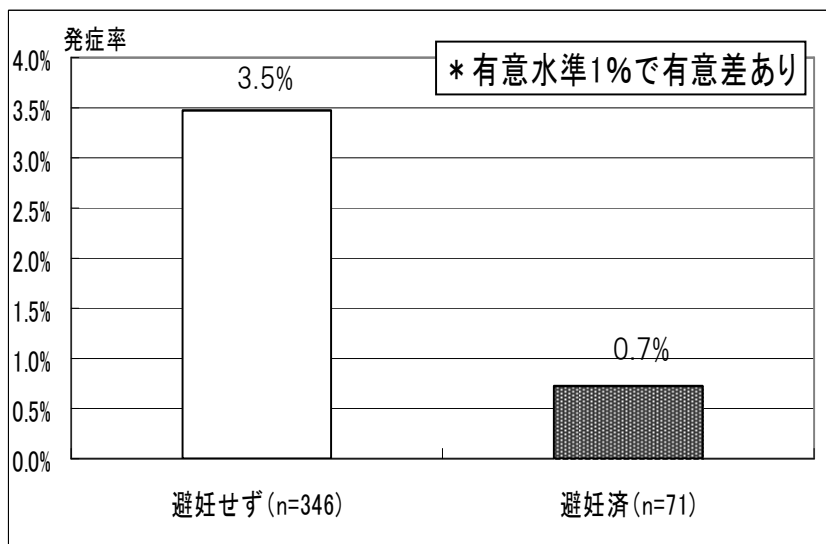
腫瘍疾患の発症率の高いゴールデン・レトリバーにおいて、6歳から9歳の間は男の子に比べて女の子のほうが腫瘍発症率が高かった（アニコム家庭どうぶつコラムvol.008）ため、腫瘍疾患の中でも、女の子に特徴的な乳腺腫瘍の発症が多いと予想された。そこで、犬の0～12歳の契約を対象として、給付金請求データをもとに乳腺腫瘍の発症率、つまり犬の全契約頭数に対する**乳腺腫瘍の請求のあった犬の割合を調べたところ、女の子で2.86%、男の子で0.04%であった。**男の子でも、6歳で2頭、10歳で2頭の請求があった。

また、臨床現場や研究論文など^{※2}では「避妊手術をうけていれば、乳腺腫瘍になりにくい」といわれていることから、避妊の有無による差を調べた。結果、**避妊手術をうけていない女の子の犬の乳腺腫瘍の罹患率が3.5%**と、**避妊手術をうけている女の子の犬の乳腺腫瘍発症率0.7%よりも、高かった（図1）。**

※1 契約期間中に、腫瘍疾患で1日以上通院した犬を「発症した犬」とし、各犬種の契約頭数に対して「発症した犬」の割合を算出。

※2 Schineider R, et al J Natl Cancer Inst. 43:1249-1261,1969

【図：乳腺腫瘍の発症率（犬、女の子）】



※ 2006/10/1～2007/9/30にアニコムクラブ「どうぶつ健保」と契約した0歳～12歳の犬(女の子)を対象に調査

※ 対象:106,509頭

**女の子の乳腺腫瘍の予防には、
避妊手術が効果的と考えられる**

